
ケチは身を滅ぼす

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ケチは身を滅ぼす

【Nコード】

N3512P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

王様から魔王退治を命じられた勇者。王様から彼に与えられたのは、子供のお小遣いに等しい100Gと薬草一つ。やむを得ず、自力で金を稼ぐ為に町の周辺で、母親からのイヤミに耐えつつスライム殺しに勤しむ勇者だった。そんな彼も旅を進めていく中で、ようやく勇者としての自覚に目覚めつつ、紆余曲折の末にとうとう魔王城の前に辿り着いた。

目の前にそびえ立つのは、苦難の末に、ようやく辿り着いた魔王城。俺はたった一人、伝説の防具に身を包み、そして伝説の武器を片手に、とうとうここまでやってきた。

——ほんと、長かったよなあ……。

朝起きて、突然お袋から「王様に挨拶しにいきなさい」と部屋から放り出されたのが、この旅の始まりだ。

おいおい。何で一般人の俺が、王様に直に会うなんて話になんだよ。お袋の奴、もうボケやがったか？

などと思いつつも出向いた城で、兵士たちから羨望の眼差しを向けられる中を謁見室に通されて、そこで俺は唐突に自分の運命を告げられた。

「その宝箱を取るがよい」

とか偉そうに告げるこのオッサンが、我が国の国王様。俺は言われるまま、宝箱を開けて驚愕した。

——100Gってガキの小遣いじゃん。で薬草一個とかシヨボつ。魔王を倒しに行く勇者に、これは無いだろ。

だが、魔王退治を命じたら、そこで王様の仕事は終わりらしい。俺は早々に謁見室から追い出され、100Gを持って武器屋に行くしかない。そこで棍棒を買った俺は、さっそくスライムを殺しに、町の外に出かけた。

正直、その辺でネバネバしてるだけのこいつらを退治する意味は全く無い。だが、奴らは何故か2Gという金を持っている。

俺は、まるで追い剥ぎのごとく、金の為に奴らを殺しまくった。そうしてコツコツ貯めた金で、そこそこマトモな武器と防具を手に入れるまで一週間も掛かってしまったわけだが、その間、休むために家に帰る度にお袋からの「まだこんなところでウロウロしてるのかい」なんてイヤミに耐えなきゃならなかったのが、何より辛

かったぜ。

だが、そこからは割と順調な旅路だったな。

ダンジョンのボスを倒したり、盗賊に盗まれた秘宝を奪い返したりしながら、俺もそろそろ勇者としての自覚が芽生えて、他人の家のタンスを漁って金やアイテムを見つけることにも、何の抵抗も無くなってしまう事が、その主な勝因だろう。

そんな風に、苦勞と犯罪ストレスの行為を繰り返した末に、やつとの思いで伝説の装備を手に入れた俺は、これから最後の試練に立ち向かわなければならぬ。

「……だいたい魔王って何なんだよ」

魔王って言うからには、魔界の王様なんだろうな。って事は、やっぱりこの城にも謁見室なんてあつて——しかもそれは多分城のてっぺんにあるはずだ——そこで偉そうにふんぞり返ってるんだろうか。

俺は見ず知らずの魔王のそんな姿を想像し、ちよつとム力ついた。

——さすがに国王を殺っちゃマズいもんな。代わりに、魔王をボコボコにして、憂さ晴らししてやるか……。

王様のくせに、たった100Gと薬草しかくれなかった事への、俺の恨みはそれぐらい大きい。八つ当たりされる魔王には気の毒だが、これも運命と言うものだと言いついて貰うしかないだろう。

「よし、行くぞっ」

そう勢い込んで、城の重厚な扉を音を立てて開いた俺が見たもの、それは——。

「むっ、貴様が勇者か。待っていたぞ」

なんと、そこに魔王がいた。

城のてっぺんでふんぞり返っている様子を想像していた俺としては、正直心の準備が全く出来ていない。この状況で魔王と対峙しなければならぬのは、かなりの不利だ。

——くそっ、卑劣な！

とにもかくにも、俺は剣を抜いて構えを取った。

「やる気が、良いだろう。しかし、貴様のその勇氣に免じて、一つ取引を申し込もうではないか」

「取引？」

「私の部下になるなら、この世界の半分を貴様にくれてやるう」

「……………へ？」

「むつ、足りないか？ならば、20分の11でどうだ？」

—— 細かつ！

しかし、随分気前の良い魔王だな。100Gと薬草しかくれなかった、うちの国王とは雲泥の差だ。

しかも、さつき「待っていたぞ」とか言ってなかったか。という事は、いつ来るとも知れない俺を出迎える為に、ここですつと待ってたって事だよな。

—— あれ、こいつ実は良い奴なんじゃないか？

そもそも、よく考えてみれば、いや、全く考えるまでもなく、俺があのかちくさい偉そうな国王のために命を張る必要があるとは、到底思えない。

勿論、魔王に支配される世界ってのが、どんな物なのか想像もつかないし、さすがの俺も不安を感じないではない。

だが、世界の20分の9が少々ヤバいことになっても、それほど困らないんじゃないだろうか。

—— 決まったな。

「よし、部下になってやろう」

そして、あからさまにホッとした顔の魔王と俺は握手を交わし、とりあえずあのかち国王をどうやって処刑するかで、大いに盛り上がるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3512p/>

ケチは身を滅ぼす

2010年12月7日07時31分発行